

次車牛飼持揚立

〔平治物語〕主上六波羅行幸事

中宮モ主上條○二ト一車ニゾ召レケル略○中 清盛郎等伊藤武者景綱、黒糸威腹卷ノ上ニ小張著テ

雜色ニナル、館大郎貞康、黒革腹卷ノ上ニ牛飼ノ裝束シテ御車ヲ仕ル、

〔長秋記〕大治四年四月十九日丁卯、齋院三年祭了、入給于野宮之御禊也略○中 所借牛申仁和尚寺僧都

也、日來雖被借、假內稱有障之由、不借然而及前事、闕云々、仍所借送也。

〔沙石集九〕證月房上人之遁世事

南都ノ故一乘院ニ、古光明寺院ノ僧正參ラレタリケル時ノ物語ニ略○中 古金剛王院ノ僧正、公請

勤メラレタル時、僧正ノ牛飼、御室ノ御車ト車立論シテ、御室ノ御車ヲ散々ニシタリケルヲ、房官

侍、牛飼ヲ制シカネテ、僧正ニ爾々ト申ケレバ略○下

〔源平盛衰記 三十三〕光隆卿向木曾許、附木曾院參禪事

木曾冠者義仲ハ略○中 我官ヲ成タリ、サノミ非可有引籠、出仕セントテ、直垂ヲ脱置テ、狩衣ニ立烏

帽子著テ、初テ車ニ乘院白河後○中 牛飼ハ平家内大臣盛○宗ノ童ヲ取テ仕ケレバ、高名

ノ遣手也、主ノ敵ゾカシト目ザマシク心憂思ヒケル略○中 牛童、車ヲ門外ニ遣出テ、後テ一楯スツアテ

タレバ、飼立タル強牛ノ逸物也、何ノ滯カ有ベキカレバ、如飛走ル、木曾車ノ内ニ却様ニマロボ、牛

ヲ留シ爲ニヤ、ヲレ童々ト叫ケレバ、留ヨト云トハ心得タリケレ共、イトハ鞭ヲ當ツ、牛ハヤリア

カテ躍ル、起アガラントトスレ共、ナジカハ起ラルベキ略○中 郎等共ガ馳付テ、如何ニ暫シ留ヨ

ト仰ノ有ルニ、角ハ仕ルゾト云ケレバ、牛童陳ジ申ケルハ、ヤレ小デイトト候ヘバ、初テ御車ニ

召テ、面白ト思召テ、車ヲ遣々ト仰アルト心得テ仕テ侍リ、其上此牛ハ、鼻ツヨク候ト申テ、車ヲ留

テ後、木曾起居タリケレ共、六七町ハアガ、セヌ、キナラハヌ狩衣ノ頸ニテ喉ヲバツヨク詰タリ、